

親鸞聖人 七百五十回  
大遠忌 法要に向けて ③③

# 開かれた教学伝道研究センター

浅井成海

(あさい じょうかい)

## (一) いま遇う喜び

いよいよ、御影堂平成大修復工事が完了し、四月一日に「御動座法要」二日に「本願寺御影堂平成大修復完成奉告法要」が勤修された。五月二十二日～二十六日まで「本願寺御影堂平成大修復完成慶讃法要」がお勤まりになる予定である。

本当におめでたいこと、うれしいことである。さらには、大修復が成

った御影堂の親鸞聖人の御影の御前において、聖人の七百五十回忌の法要がお勤まりになるその勝縁にお遇いすることができ、なんとありがたいことであろうか。聖人が『教行信証』総序で「遇ひがたくしていま遇ふことを得たり、聞きがたくしてすでに聞くことを得たり」〔註釈版聖典 一三三二頁〕とのお慶びは、我われ一人ひとりの今の慶びでもある。

(二) ささまざまな研究成果を  
発表する

ところで「教学伝道研究センター」の設置の目的は三つの柱で示されている。

(宗則の総則)

①世相の推移と思想の動向を把握すること

②現代社会の要請にこたえる浄土真宗の教学研鑽の体制を確立すること

③もって教学伝道の振興に資すること

この三つの柱のもとに、研究体制の充実のために、本願寺教学伝道研究所と本願寺仏教音楽・儀礼研究所の二つの研究所が置かれている。

その研究成果についてもすぐれたスタッフの努力によって次々と発表されてきた。その一々について細か



御輿、御影堂へ（4月1日）

く述べることは煩雑はんざつとなるので述べないが、時代に即応する教学とは何かが研究され、いずれその成果がまとめられ、報告されることになって

いる。朝夕に読まれ、つねに親しみやすい親鸞聖人のことは、それは「救いのごびを語る言葉である」が、これも近くみなさんに届けられることになっている。

また、本願寺仏教音楽・儀礼研究所では、今後のご遠忌おんき法要にどのような音楽法要がなされるのがよいか、工夫・研究がなされて、これもすでに発表されたことである。

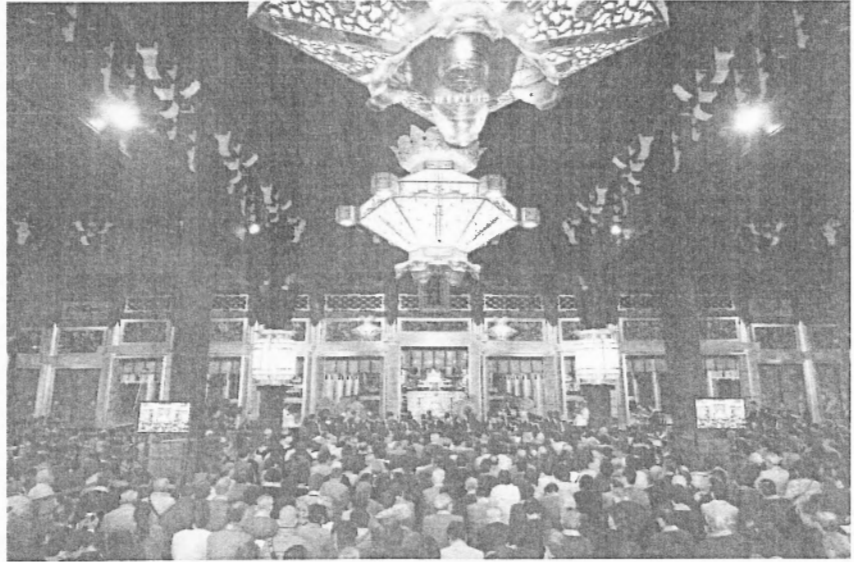
なお本当に地味な仕事であるが、「季刊せいてん」が一年四回発刊され、いかにみんなが「聖典に親しむことができるか」いろいろ工夫され、また「浄土真宗聖典全書」全六巻の編纂や聖典の現代語訳も次々と発刊されてきた。

また、「仏事に関わる相談」や「いのちの電話相談」あるいは「自死」をめぐるシンポ

ジウムを通して、みんなでこの問題にとりくみ、いのちの尊とうとさをあらためて見つめなおす試みがなされてきた。

### (三)現代に学び、 教学を現代に聞く

先にあげた「教学伝道研究センター」の三つの柱は、実に重要な基本理念を示している。「浄土真宗のみ教えは素晴らしい、しかしむずかしい」「浄土真宗のみ教えは深いみ教えであるが、現実の生活、現実の問題とどう関わるのですか」「はじめてみ教えを聞く人に、聖人のみ教えをどう伝えたらよいのですか」「このような質問にどう答えていくことができるか、今までのさまざまな成果をふまえながら、これからさらなる多くの研究成果を提示していかねばならない。その場合、今までも留意



御動座法要（4月1日）

され、今後も大きな課題は「現代と  
はどのような時代であり、いかなる  
苦しみや悲しみをかかえているか、  
現代をどのように把握しているか」

の問題である。つねに鋭敏な  
心で現代をうけとめていくこ  
と、教学の要についてこれも  
充分学びながら、その教学の  
意味するところは何か、何を  
現代に語りかけようとしてい  
るか」をあきらかにしていま  
たい。

また、「伝道」ということ  
についても研究の成果をいろ  
いろに普及していくことを、  
より積極的に考えていきま  
い。

多くのみなさんが、さまざま  
な「教学伝道研究センター」  
の活動に関心をもって、いろ  
いろ参加していただきたい。

今まで以上に、さまざま  
研究成果を発表していくことになる  
ので、期待もし、さまざまご意見  
も寄せていただきたい。

なんと少しでも充実を期さねばな

らぬのは、本願寺教学伝道研究所東  
京支所の充実である。首都圏の大き  
な波のうねりは、現代に無視するこ  
とはできない。どう充実していくか、  
さまざま工夫をしていきたい。

大悲心がよび声としてはたらいて  
下さる「行巻」のお念仏、それを  
聞即信としてあきらかにされる「信  
巻」の信心、その信心が現代に音楽  
や宗教儀礼の研究成果としていかに  
発表されていくか、またいかに開か  
れた教学内容として成果を示してい  
くことができるか、伝えていくか、  
研究所のみなさんとともにベストを  
尽くしていきたい。

七百五十回大遠忌法要を迎えるに  
あたっていかに開かれた研究成果を  
みなさんに伝えていくことができる  
か、着実な歩みを重ねたい。

（本願寺教学伝道研究センター所長）